

たとえリセットされても

## 医療と、「ココロと、AIと

6年 W・Kさん

〈精神科〉

初めてその言葉を聞いた時、変な言葉だと思った。医療というのは、体の治療をするもので、心の治療はできないと思っていたからだ。今では、薬やリハビリがないと治らないくらい重度の精神病もあることを知っているから、変だとはあまり思わなくなった。でも、「たとえリセットされても」は、その違和感を再浮上させてきた。

主役級でもないし、登場シーンも決して多くはない。それなのに私が強く心ひかれたのは愛のお母さんだった。子を産めない病気になる、さらに夫と死別。どちらも、私にはわからないくらい悲しみだと思う。だから、愛がお母さんの心を治療するロボットとして処方されたものもうなずけるし、お医者さんのその判断は適切だったと思う。でも、その上でこう思っている。

「あのまま愛を使い続けても、心の傷が完全に癒えることはなかっただろうな」と。

リセットの罪悪感。ロボットだとわかってるゆえの虚しさ。きつと、様々複雑な思いをかかえていたのではないだろうか。

近年、AIは人の生活にどんどん入りこんできている。身近に生成AIがあり、学校のクラスの人にきくと、多くの人がチャットGPTを使ったことがあると答える。

医療現場でのAIの使用が検討されているのだから、愛のような「心を治療するロボット」が登場するのも、そう遠い未来の話ではないかもしれない。

だからこそ、考える必要があると思う。人とAIの関わり方、特にココロとAIの関わり方。愛のお母さんが、心に残した複雑な思いを、同じように感じる人がいないように。